

世界保健デー 2024 イベント開催報告



大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学
特任研究員

山田 絵里 (やまだ えり)

看護師、保健師。言語や文化、生活背景が異なる方々の健康の維持・増進に貢献したいと考えている。国際医療コーディネーター、大学教員を経て、2021年より現職。

世界保健デー 2024のイベントの様子は、日本WHO協会ホームページにも掲載しております。ぜひご覧ください。



世界保健デーとは

世界保健機関憲章 (Constitution of the World Health Organization : WHO 憲章) が発効した4月7日を記念して、世界保健デー (World Health Day) が定められました。毎年、WHOにより世界保健デーのテーマが発表されると、世界の多くの国で、4月7日 (あるいはその前後に) 「世界保健デー」として、さまざまな健康のためのイベントが行われています。

2024年のテーマは「My Health, My Right (私の健康、私の権利)」と定められ、キーメッセージが発表されています (図1)。日本では、それを厚生労働省が日本語に訳しています。

日本 WHO 協会の取り組み

日本では1966年4月に、日本WHO協会が京都で初めて世界保健デーのイベントを開催しました。その後、21世紀初頭に中断していましたが、新型コロナウイルス感染症の最中、2022年4月7日に復活しました。2022年には「Our Planet, Our Health (わたしたちの地球、わたしたちの健康)」のテーマのもと、完全オンラインでの開催、2023年は「Health For All (すべての人に健康を!)」をテーマに、会場とオンラインでのハイブリット開催となりました。いずれのイベントもテーマに沿った内容で講師をお招きし、講演やパネルディスカッション

ンを行ってきました。今年は4月7日に大阪商工会議所国際会議ホールで対面のオンライン配信形式で行われましたが、中村安秀理事長の基調講演に加え、地球のステージの桑山紀彦さんを迎え「世界の今と平和を考える」をテーマとしたコンサートも織り交ぜた充実した内容となりました。

開会挨拶の中で中村氏は、世界保健デーが定められた経緯や日本でのイベント開催の歴史等について紹介されました。続いて、武見敬三厚生労働大臣より来賓挨拶としていただいたビデオメッセージを上映しました。その中で、1966年4月6日に日本で初めて開催された世界保健デーのイベントでは、当時日本医師会会長を務めた実父 武見太郎氏が「日本人の健康」について講演されたことにも触れられ、国内での啓発活動の重要性についてお話いただきました。

動画募集 入賞作品の紹介と表彰

2023年度から行っている「世界保健デー動画募集」も3回目です。今回は、「Our Planet, Our Health (わたしたちの地球、わたしたちの健康)」、「Health For All (すべての人に健康を!)」の2つのテーマをもとに、あなたが考える人と地球の健康について自由な発想で作成した動画を募集した

世界保健デー2024 キーメッセージ

一般の方へ

- 健康の権利を知りましょう。
- 自分の健康は自分で決めましょう。
- 基本的人権としての健康の権利を守りましょう。
- 健康に対する権利を、より広範な人権の本質的な柱として推進しましょう。
- 健康を最優先に考えましょう。

各国政府へ

- すべての法律が重要です。
- 最終的な利益が健康にかかっているように、健康に投資しましょう。
- 健康への権利を実現しましょう。
- 戦略的に、基礎から構築しましょう。
- 透明性と説明責任を推進しましょう。
- 健康に関する意思決定に一般の人々を参加させましょう。
- 人々の健康ニーズを把握し、それに基づいて行動しましょう。
- 戦争や紛争下での健康への権利を守りましょう。

日本WHO協会「世界保健デー：キーメッセージ」<https://japan-who.or.jp/news-releases/2404-8/>
※詳細はWHOウェブサイト参照 <https://www.who.int/campaigns/world-health-day/2024/key-messages>

図1 世界保健デー 2024 キーメッセージ

ところ、35 件の応募をいただきました。そして、選考委員会による選考の結果、優秀賞 3 作品、奨励賞 7 作品が選ばれました（図 2, 3）。いずれの作品も、人と地球の健康に対する動画制作者の思いが溢れる素晴らしい作品でした。

イベント当日は、優秀賞 3 作品を上映した後、受賞者の中で現地参加が可能であった井上みよんじゅ氏へ中村安秀理事長より、表彰状と副賞、記念品が贈呈されました。井上氏は「手話通訳の仕事をする中で、聴覚障害者の方々は、「一見、障害があるとはわからず、声をかけても無視していると思われる」、という体験を聞いたことが、今回の作品を制作するきっかけとなった。最近は舞台通訳などの手話通訳も増えてきており、さらによりよい社会になってくれたらうれしい。」と喜びの言葉を述べられ、会場からの大きな拍手により受賞を祝福されました。優秀賞 3 作品については、作品の一部と受賞のことば、選考委員からの推薦のことばをご覧ください（p.13）。

基調講演

「My health, my right (私の健康、私の権利)」をテーマとした基調講演の中では、2023 年 6 月にガザで行われた「パレスチナ母子手帳 15 周年の歩み記念式典」についても振り返られました。これは、日本・UNRWA (国

「Our Planet, Our Health」「Health for All」動画募集 優秀賞受賞者一覧 (順不同、敬称略)	
作品名	団体/応募者
2050 ～水のない世界～	Water Lily (神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 グローバルガバナンスゼミ) 遠藤愛生、大河原亜美、鈴木咲桜、中島伶、濱崎菜那、瀧上ちゆん、松葉学門、水上そら、三橋琴羽、山口創、Jewel Poudyal
地球のためは人のため	平井裕貴
なかよしてよし	田邊優と仲間達 井上みよんじゅ

図2 「Our Planet, Our Health」「Health for All」動画募集 優秀賞受賞者一覧

「Our Planet, Our Health」「Health for All」動画募集 奨励賞7作品受賞者一覧 (順不同、敬称略)	
作品名	団体/応募者
あなたへ	谷岡 紗由美
地球と友達	石神井西中学校 下野真奈
地球防衛隊	日本工学院八王子専門学校声優・演劇科V2ゼミ 望月遥太
「アース」	日本工学院八王子専門学校 声優・演劇科 声優コース V1ゼミ
What is your next action?	奥田留奈
今未来の歴史を変える	星野小冬、米田楓美花
Be beauty Be healthy	グリーンピース 榎原 凜太郎

図3 「Our Planet, Our Health」「Health for All」動画募集 奨励賞受賞者一覧

連パレスチナ難民救済事業機関：United Nations Relief and Works Agency for Palestine refugees in the near east) 70 周年、母子手帳の UNRWA 活動地域への導入 15 周年を記念したイベントであり、当時は現地

と日本を結び、母子手帳を使っているパレスチナ人と日本人の母親が、オンラインで楽しく語り合ったということでした。現在の状況を考えると、あたりまえの日常がある日一変してしまうことの現実をつきつけられました。

講演の中で、世界保健デーのテーマが特定の疾病をテーマにする「医学モデル」から社会の中での健康を考える「社会モデル」に変遷してきていることを指摘されました(図4)。さらに日本では、国民皆保険制度のなかでもユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)のセーフティ・ネットからこぼれ落ちた人々に対する公平な対応が求められることを説明され、これを人間の安全保障(human security)の重要性として、改めて考える機会を提供されました。

地球のステージ・コンサート 「世界の今と平和を考える」

28年にわたり世界各地を訪れ、それを「地球のステージ」としてオリジナルの曲と画像で発信し続けている精神科医の桑山紀彦さんのコンサートが行われました(写真1)。今回はSDGsの16(平和と正義)、17(連帯)に関連してパレスチナ・ガザとウクライナの状況とそこでの心のケア(社会心理的ケア)の様子をお伝えいただきました。ガザでジャーナリストとして活動するモハマドは地球のステージを通して戦禍のガザに暮らす人々の惨状とそれでもそこでたくましく生きる人々の様子、彼らの優しい心を写真で精いっぱい発信し続けています。ウクライナから隣国ルーマニアに避難してきたユリアは地球のステージのスタッフとして同じ難民の子どもたちの心のケアをするようになりました。子どもたちの心が傷ついていることに対して何とかしたいと思い、心のケアを学び、子

世界保健デー：過去のテーマ (医学モデルから社会モデルへ)

年	テーマ(日本語訳)
2010年	進行する都市化と健康を考える
2011年	薬剤耐性の脅威 今動かなければ明日は手遅れに
2012年	高齢化と健康 健康であってこそ人生
2013年	血圧管理の重要性：心臓疾患・脳卒中のリスクを減らそう
2014年	節足動物が媒介する感染症から身を守ろう
2015年	食品安全：あなたの食べものはどれくらい安全ですか？
2016年	糖尿病
2017年	うつ病：一緒に話そう
2018年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：誰もがどこでも保健医療を受けられる社会に
2019年	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：誰もがどこでも保健医療を受けられる社会に
2020年	看護師・保健師と助産師を支援しよう
2021年	より公平で健康的な世界を築くために
2022年	わたしたちの地球、わたしたちの健康
2023年	すべての人に健康を
2024年	私の健康、私の権利

図4 世界保健デー：過去のテーマ

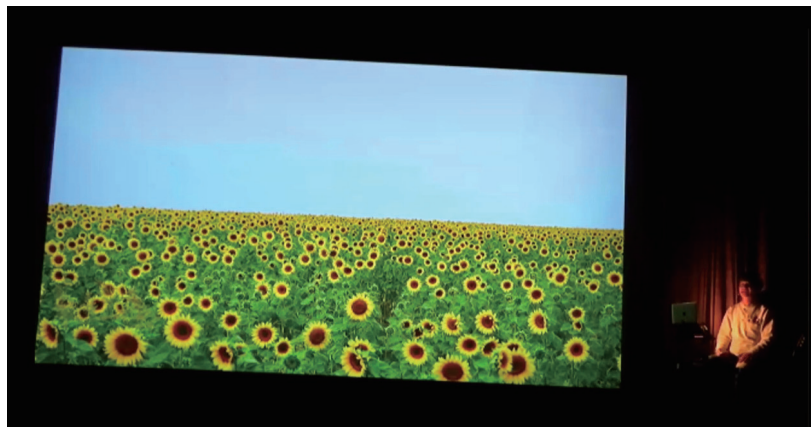


写真1 地球のステージ コンサートの様子(写真はウクライナのひまわり)

どもたちのために活躍してくれています。彼女に自分たちの物語を日本で伝えてほしいと託された桑山さんが曲を添えて披露してくれました。二人とも、平和で便利で豊かな日本は素晴らしいが、それをあたりまえと思わず感謝してほしいと言われていたそうです。SDGs17の「パートナーシップ」としては「ガザやウクライナに日本が何ができるのか、どうすればいいのか、とても難しいけれども、諦めたら終わりなんで、諦めず何ができるか日々考えていきたい」という桑山さんの言葉が印象的でした。

さいごに

イベント終了後、帰り際に参加者の一人が「深く考えずにコンサートと思ってきたけど、とんでもないものを見てしまった。いっぱい宿題をもらった。」と言い残して帰られました。

健康は人権の一つです。世界保健デーのイベントを一時的なものにせず、これをきっかけとして、そこから各自が“My health, my right”のために何をできるかを模索していただければありがたいと思います。みなさんご参加ありがとうございました。

募集動画 優秀賞受賞作品のご紹介

〈作品名〉2050 ～水のない世界～ 〈受賞者〉神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 グローバルガバナンスゼミ
遠藤愛生、大河原亜美、鈴木咲桜、中島伶、濱崎菜那、瀬上ぢゆん、松葉学門、水上そら、三橋琴羽、山口創、Jewel Poudyal



〈受賞のことば〉今回このような賞をいただき、ゼミメンバー一同光栄に存じます。一人でも多くの人に水問題の現状とおこりうる未来を知り、今の自分の行動を見直すきっかけを提供するために、世界の水問題の啓発につながる仮想2050年のショートムービーを作成しました。この作品から人々の健康だけでなく、私たちが暮らす地球全体の健康についても考えるきっかけになれば幸いです。〈推薦のことば〉あなたは2050年生きていたいですか？ショッキングな表現で始まるこの動画は、水のない生活を鮮やかに描いています。データに基づいて水不足の原因を示し、解決に向けて何ができるかを私たちに問いかけます。英語字幕もあり国内だけでは勿体ない作品です。

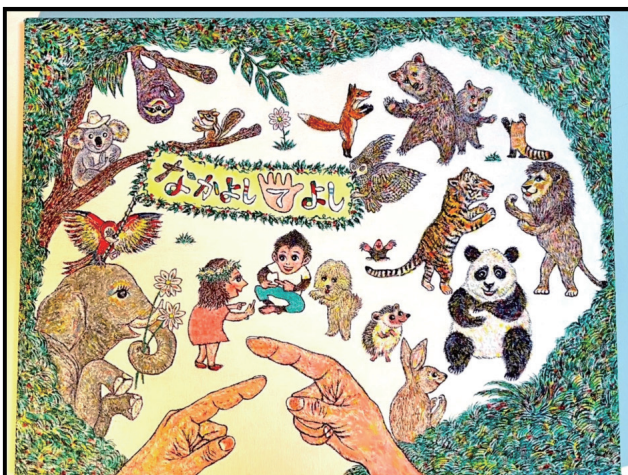
〈作品名〉地球のためは人のため 〈受賞者〉平井裕貴

〈受賞のことば（要約）〉この度は栄えある賞をいただきありがとうございます。応募に際してまず、本コンテストのテーマと照らし合わせ、自分の健康を考え直すと、醜く膨らんだお腹が目にとまり、動画作りより先に運動を始めることになりました。取り組んでいるうちに移動時の自家用車の利用が減り、人の健康のためにやっていることが地球の健康とも結びつくことに気づきました。これが今回の動画のテーマです。本コンテストを通して健康を考えることが私のきっかけになったように、この動画が誰かにとって人や地球の健康への意識付けになればこれほど嬉しいことはありません。



〈推薦のことば〉学校の宿題を切り口にして、プラネタリーヘルスを身近に感じられる作品です。近場の移動は車を使わないことも、夜更かししないことも、地球と人、両方が健康になることですよね。地球にもあなたにもよい事を、主人公と一緒に考えてみませんか？

〈作品名〉なかよしてよし 〈受賞者〉田邊優と仲間達、井上みよんじゅ



〈受賞のことば〉このような賞をいただいてもとても光栄です。日本の、世界の、聴覚障害者の世界が少しでも、もっと素晴らしいものになるようにこれからも努力を重ねていきたいと思えます。次回作をご紹介できる日が楽しみです。

〈推薦のことば〉動画に登場するおふたりの見えない壁が消えていき、自然と笑顔があふれる様子がとても印象的でした。人々が助け合い、さまざまな壁を乗り越えた先に広がる不平等のないやさしい世界。そんな世界が当たり前になることを願ってやみません。